



学びのアップデート

Learning Updates



- これからの情報モラル教育のポイント
- 情報モラル教育をさらにアップデート ～場面ごとに危険度を比較して考えさせる～
- 「みんなでアプリ作ろうキャンペーン」やっています！
- 子供の荷物、重くないですか？
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を考える。「デジタルを活用したこれからの学び」

■ セーフティ教室の内容を決める先生方の会話例

外部講師をお呼びして、
講演会を実施しましょう！



情報モラル教育って
外部講師に任せきりで
いいのかな・・・

話を聞くだけでなく、子供たちが
考える形にできないかな・・・

日常的な指導も必要では
ないのかな・・・



端末を活用して実践的に
学ばせられないかな・・・

学校での情報モラル教育にどのように取り組んでいくといいのでしょうか？
ポイントを紹介します！



これからの情報モラル教育のポイント

子供たちが端末を活用したり、話し合ったりする学習に取り組んでみませんか。



情報モラル教育は「特定の教科等で実施する」「外部の専門家が教える」だけではありません。

各教科等で端末を活用する際に情報モラル教育を取り入れる。

例えば、発表スライドを作成する授業では…

0分

1 単位時間



「GIGAワークブックとうきょう」を活用して、授業者が「著作権」について指導することができます！

「GIGAワークブックとうきょう」は「学びのアップデート第16号（令和5年6月22日発行）」で詳しく紹介しています。

児童・生徒の実態に応じて、特別活動、各教科等、朝学習等の時間に活用してみましょう！



※9月に事例が増えました！！

上手な使い方等を考えたり話し合ったりさせる。

制限や禁止で終わらず、「自分たちが今、抱えているトラブルや問題点」「対応策」「ルール」を考えてみましょう。



事例について考え、話し合うことができる教材を紹介します！



すべて情報教育ポータル「とうきょうの情報教育」で公開中です。 http://infoedu.metro.tokyo.lg.jp/digital_literacy.html



■ 夏の研修会の講演から（「デジタル利活用推進教員育成研修」から）

令和5年7月31日（月）、都内全公立学校を対象にした研修を開催しました。
研修会での静岡大学教育学部塩田真吾准教授からの講演の内容を紹介します。



情報モラル教育をアップデートしましょう

問題の発見

トラブル事例などの動画を見ることで、問題を知る。



問題への対応

どのように対応をするとよいか等、グループディスカッションを行う。



問題の自覚

問題に対して、その問題が「自分」に発生した場合として考える。

【自分ごと化】

問題の発見

トラブル事例などの動画を見ることで、問題を知る。

【特定】

問題の見積り

その問題がどのくらい危険なのか、影響を及ぼすのかについて考える。

【分析・評価】

問題への対応

見積りを受けて、その問題に対する対応方法を考える。

【対応】

静岡大学教育学部准教授 塩田先生の当日の講演を参考に教育庁が作成

児童・生徒に自分ごととして考えさせ、「問題が少しでも起きるなら使わせない」ではなく、**活用場面ごとにどの程度問題があるか**を考えさせる視点を取り入れ、「情報モラル教育」をアップデートしませんか。

「地域安全マップ」と同様に、**危険度に差をつけて考えさせる**ようにしていきましょう。



「みんなでアプリ作ろうキャンペーン」やっています！

■多くの生徒が興味をもてるように！

都立学校の生徒を対象に「みんなでアプリ作ろうキャンペーン」を実施中。高校生（一部中学生も含む）の取組を紹介します！

年間で
三つのイベントを
実施！

第2弾「夏の3 Daysハッカソン」

8月中旬に実施しました。「青春の問題をITで解決する」をテーマに、各グループがモバイルアプリを作成・プレゼンしました。

優勝した晴海総合高校チームが作成したのは「くらげカレンダー」。各自が入力した目標に対して、一日ごとのタスクが通知され、そのタスクを達成すると「くらげ」が成長していくスケジュール管理アプリです。



■東京都教育委員会フォトニュース
<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/administration/photonews/2023/photonews230824.html>

第1弾「ワークショップ」



希望する生徒にMicrosoft Power Appsのアカウントを付与し、その使い方を学ぶワークショップを行いました。



第3弾「モバイルアプリコンテスト2023」

現在「モバイルアプリコンテスト2023」で作品を募集中。応募締切は11月20日（月）です。たくさんの高校生が応募してくれることを期待しています！

詳しくは、以下のサイトを御覧ください。

<https://minnadeapli.metro.tokyo.lg.jp/>

※このコンテストは国立・私立高校等も対象です。



小学校から学ぶプログラミング教育の集大成！
高校生らしい作品に御期待ください。



子供の荷物、重くないですか？

少しでも児童・生徒の負担を減らす方法は？

従来の教科書・ノート等に加え、タブレットも加わっている児童・生徒の荷物。その重さが気になることもあるのでは？

デジタルを活用すれば、少し減らすこともできるのではないのでしょうか。

紙の教材をタブレットに入れてしまえば！

文部科学省からの事務連絡には、以下のような文章があります。

例えば、家庭学習に必要な教材（教科書等を含む。以下同じ。）の**該当ページを1人1台端末で撮影し、画像データとして学習に活用**することで、家庭学習の質の充実を図ることが可能です。なお、こうした取組を通じて、**当該教材を学校に置いて帰ることも可能**になると考えられます。



詳しくは文部科学省から出された令和4年11月24日付事務連絡「1人1台端末により撮影した教材の画像データを活用した学びについて」を御覧ください。

https://www.mext.go.jp/content/20221124-mxt_jogai02-000003278_1.pdf



例えば、資料集のうち家庭学習で必要なところを端末で撮影し、資料集自体は持ち帰らないことも可能になっています。

タブレット端末が普及した今、紙とデジタルのバランスをとり、改めて子供の持ち帰る荷物について考えてみてはいかがでしょうか。



山形県T市の小・中学校を視察してきました！

子供は有能な学び手であると信じること ～子供主体の学びの実現に向けて～

T小学校では、**子供は有能な学び手**であることを教師が信じ、**子供の学びの文脈に沿って学習活動を展開**していました。

教師は、教科書の通りの展開に子供たちの学びを矯正してしまいがちです。T小学校の、「なんでだろう」「不思議だな」など子供の思いにとことん寄り添う実践、言い換えれば**子供に学びを委ねる実践**は大いに参考になると感じました。

T小学校の取組から学んだ授業改善のポイント

子供たちの学びの文脈に沿って学習活動を展開する**覚悟**

☐ T小学校授業スタイルの確立

- ・ 仲間と教師が作る授業（通常授業）
- ・ 自学自習（司会役の子供が授業を進行）
- ・ マイプラン学習（単元内自由進度学習）
- ・ フリースタイルプロジェクト（個人内総合）

8割

2割

デジタルリーフレット 「デジタルを活用したこれからの学びの提案」

4月3日付で各区市町村教育委員会や都立学校に発出したデジタルリーフレットです。

（教育委員会を通じ各学校に送付済みです。）

個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実に向け、一人1台端末時代の新たな学びの姿を示しています。校内でぜひ御活用ください。



本リーフレットの担当は東京都教育庁総務部教育政策課です。

「とうきょうの情報教育note」はじめました。「デジタルを活用したこれからの学び」に関する情報を発信していきます。

https://note.com/t_info_education

New!



学習指導要領に示されている資質・能力を育むには、指導方法、学習方法、学習環境等を更新し、最新のものにする必要があります。

また、Society5.0に向けて、ICT機器及び環境というハード面と、それらをどう利用していくか、授業そのものをどのように構成するかというソフト面の両方のアップデートが求められています。

そこで、これからの「学び」を最新のものに「アップデート」していただくことを願い、本通信のタイトルを『学びのアップデート』としました。東京都教育委員会のホームページにも後日掲載する予定です。

学びのアップデート

Society5.0に向けた一人1台端末の活用のための実践事例通信
第18号 令和5年10月4日発行 東京都教育庁総務部教育政策課